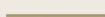


竹取の物語



pinokopapa



目次

奈良へ	1
讚岐神社	2

奈良へ

どうでしょう、奈良と聞くとなにかしらロマンを感じませんか。京都にもあこがれのような気持ちを掻き立てられられますが、奈良には何とも言えないロマンを感じてしまいます。ここはともに都でした。日本を統一した為政者が政事を行った地を都とするのであれば、鎌倉、大阪、江戸も都かもしれませんが、天皇がおわしますことを要件とすれば、平城京と平安京の二か所が都でした。奈良に住んでみると、ああここは都だったんだと思ってしまっています。この地より日本は歴史を刻み、数々の神話伝説を生みました。しかし私はそれをどれだけ知っているのでしょうか。例えば、海彦山彦はそれだけで日本昔話の一つであって、古事記とかとは無縁とかと思っておりましたが、実は古事記にも日本書紀にも記載された重要な神話でした。因幡の白兎もそうです。これらはみな日本の正史でありました。しかし、あの史記とか魏志などの中国の歴史書と違って、寓話として記述されていました。というよりまるで昔話やおとぎ話のようです。大国主命の稲葉の白兎、八岐大蛇、これなんぞまるでおとぎ話と痛快冒険物語です。しかし、これとは離れて成立した物語があります。竹取物語です。为什么呢、これは。この物語を思い出すとき、いまはむかし、竹取の翁ありき、と冒頭の一説が思わずでてきます。奈良に引っ越してきた私にとって、この地はまるで未開の地の果てでした。故郷は捨ててきました。そんなわたしにとって唯一頼りになるのは、地図アプリでした。9月初めに引っ越し荷物を受け取り、越してきた家の掃除と整備、荷物の片付け、あれやこれやの買い物、そんなことに追われて3ヶ月か4ヶ月が過ぎて、そこへふって湧いたのがコロナでした。そんな中、忍従の毎日に睨んでいたのが、地図でした。家に立て籠もり、地名や寺社の名前に目を凝らし、金毘羅宮の名前を見つけ、朝、人気のない時間を選んで歩いてゆきます。知らない土地はこんなものです。金毘羅宮を見つけるのに脚が棒になった気がしました。そして見つけた金毘羅宮は、思わず見返してしまうほど小さな祠でした。

それはいいとして、地図の中に、馬見丘陵公園というのがありました。巨大です。予備知識

讃岐神社

私が車を止めたのは、竹取公園の方でした。名前は公園でも中はトイレと駐車場だけで、広い道路を挟んで、馬見丘陵公園へのお添え物みたいにみえました。私が出かけたのがまだコロナ前でしたから、早く駐車場を確保しなければ大変なことになります。その日はまだ整理員がいませんでしたからまだいい方でしたが、帰る時はもう車を止めようと、何台も待っていました。そんな、車を止めることにばかり関心が行って、竹取公園の竹取には注意が向かいませんでした。なぜなら、讃岐神社に参ろうとしか思っていなかったからです。

しかし、馬見丘陵公園は、なにしろ奈良県でも有数の広い公園です。そして、その名前の中に「陵」とあるとおり、古墳が5個だったか8個だったか、存在します。公園の敷地内にはいくつも丘が見えます。いえ、丘ではありません。全部、古墳です。馬見古墳群というのだそうです。天皇陵とは違い、様々に調査され、公園として整備もされており、古墳の上に登ることもできます。しかし、こんなものが出てきたら、公園ぐらいにしかできませんよね。だからか、奈良の地は、ちょっと木の茂った丘があれば、大抵は古墳だそうです。そして、そこは公園になります。住宅地の一等地の真ん中に、広々とした公園が様々に点在しているのが奈良です。一度、二上山と言う標高600mほどの山に登りましたが、そこから見える市街地の中にも、ほったらかしの木が茂った丘が見えます。多分そこも何らかの史跡があり、古墳かもしれません。家を建てるには厄介な地です。

さて、車を止めたのが、竹取公園でした。その一角に竹を斜めに切った形のモニュメントが立っていました。ああ、かぐや姫だと何となく思ったのですが、さほど関心は起こりませんでした。そしてこの公園から帰る時もそれを見て、そうなんだと何となく納得しただけに終わりました。ここが竹取物語の舞台であり、竹取物語は日本最古の、そして最初の物語であるとか、かぐや姫の前に現れた5人の求婚者も実は実在したうつつかたの貴公子だったかもしれないとか、何か心を鷲掴みにされるような思いに駆られることになったのは、その後讃岐神社に参ってからでした。

本当はここで讃岐神社の画像を貼ったのですが、ブログのページの仕様が変わったのか、上手くいきませんでした。申し訳ございません。この地を紹介するには画像が一番と思いますのに、残念です。

竹取の物語

著 pinokopapa

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
